

過去の南海トラフ地震とその記録

684年11月29日(白鳳地震) ※南海・東南海・東海3連動型とされる建物の破壊、人畜の死傷多く、土佐の田畑12平方キロメートルが海となる。津波あり。

887年8月26日(仁和地震)
 五畿七道大いに震う。近海津波来襲し、死傷者多し。

1099年2月16日(康和地震)
 記述等なし。痕跡あり。

1361年8月3日(正平地震)
 津波被害甚大。香美郡田村(南国市)の下庄正奥寺に高潮上がる。

1605年2月3日(慶長地震) ※南海・東南海・東海3連動型地震、大津波あり。死者5000人に上り、崎の浜、甲浦、阿波穴喰で浸死者続出。

1707年10月28日(宝永地震) ※南海・東南海・東海3連動型
 有史時代最大の地震の潰家29000、死者4900人。津波は土佐にて20m余り。海辺の在家一所として残る方なし。
 高知では潮江、下知、江ノ口より、一宮、布師田、大津、介良、下田衣笠まで海となる。

1854年12月24日(安政南海地震) ※南海単独 前日に東南海東海地震有地震、大津波で被害甚し。土佐、紀伊、阿波などで死者3000人。土佐湾沿いの赤岡以西はすべて災害被る。

1946年12月21日(昭和南海地震) ※南海単独
 震害は四国、九州、近畿、中国、中部地方に及び、大津波来襲して全国で1330人の死者が出た。
 高知は震度5で午前4時19分に発震、地震後6波の津波あり。
 県下の死者670人、不明者9人、傷者1836人、家倒壊4834。

東日本大震災から6年が過ぎました。そう遠くない時期に起きると予想されている南海トラフ地震について、今一度歴史を確認してみましよう。

表のとおり、南海トラフ地震は過去に何度も起きていた災害です。起こる頻度に多少の差はありますが、100〜150年周期で起こるとされています。また、記述からわかる限りでは、津波が来襲し被害も出ていることがわかります。このように、過去に幾度となく地震が起きており、今後も必ず起こることが予想される南海トラフ地震。
 残念ながらこの発生を防ぐことは不可能です。
 しかし、過去の経験を活かし、同じような被害を受けないように準備することが大切です。
 そして、地震災害を防ぐことはできませんが、被害を減らす「減災」は行うことができます。
 黒潮町では、今年度も木造住宅耐震に係る補助事業、家具転倒防止対策および危険なブロック塀撤去などに係る補助事業、避難道や避難場所の整備、地区防災計画および避難所運営マニュアルなどの作成支援、自主防災組織への資機材整備補助事業など、関係機関と連携し、様々な対策を継続していきます。

消防団員募集について

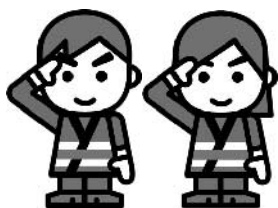
消防団は、火災や災害時などに自宅や職場から駆け付け、消火活動・救助活動を行う非常勤特別職の地方公務員です。

消防団の活動は消火だけではなくありません。地域における消防・防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守る重要な役割を担っています。

また、近年は女性の消防団への参加も増加しており、特に一人暮らし高齢者宅への防火訪問や、応急手当の普及指導などにおいて活躍しています。

消防団は、誰でも参加できる活動です。会社員の方、自営業の方、主婦の方など、性別・職業問わず色々な方が参加しています。

黒潮町には、14の分団があります。消防団に入るには、お住まいの地域を管轄する分団、または左記のお問い合わせ先までご相談ください。



〇お問い合わせ

【本庁】情報防災課 消防防災係

☎ 43-2188(課直通)

【佐賀支所】地域住民課 総合窓口第1係

☎ 55-3113(直通)